

【生薬名】 茴香<sup>㊦</sup> *HOENICULI FRUCTUS*

【起源植物】 ウイキョウ *Foeniculum vulgare*

【科名】 セリ科 *Umbelliferae*



【別名】 フェンネル(スパイス名)、小茴香、小香、穰香(カイコウ)、  
呉母(クレノオモ：古名)

【薬用部分】 成熟果実

【主成分】 精油(アネトール、*d*-リモネン、フェンコン、アニスタルデヒド)、  
脂肪油(リノール酸)、フラボノイド配糖体

【薬性】 気味は辛温、帰経は肝腎脾胃に属す

【効能】 ●理気止痛、調中和胃

●芳香性健胃薬、駆風薬、胃痛、腹痛、去痰に

5～10gを煎服、粉末は0.5～2gを服用する

●母乳分泌促進、利尿、生理不順、腎膀胱疾患に、また視力増強  
作用もあるらしい

●魚料理にあう、パン、菓子、スープ、スイートピクルスなどに  
も用いる

●根茎や柔らかい穂の部分はサラダにして食べられます

●胃腸に対し穏やかな刺激作用があり胃腸の蠕動低下による腹部  
膨満を減少させる

●胃腸の痙攣痛・筋肉の挫傷や捻挫による疼痛を和らげる

●温性なので、冷えによって増す上記の諸症状には効果がよい

【出典】 ●小茴香、性温、能く疝氣を除き、腹痛、腰疼、中を調え、胃を  
煖む。(薬性歌)

【備考】 ●中国五香の一つ

●よく似た植物にイノンド(ハーブ名ディル)がありますが、小  
茴香の方が芳香が強い

【処方例】 ●安中散、補陰湯、枳縮二陳湯